



「withコロナ時代」の更生支援 ～オンライン面会と保護司制度の改革～

NPO法人アクセプト・インターナショナル
国内事業局長 田口敏広

アクセプト・インターナショナルの組織概要

アクセプト・インターナショナルは、ソマリア、ケニア、インドネシアなどのテロ・紛争地域において、国連や現地政府と協力し、**ギャングやテロリストといった非行少年を受け入れ（Accept）、彼らの脱過激化・社会復帰支援を行っている**世界でも数少ない団体です。新しい『加害者』を生みだす負の連鎖を断ち切る事を目的に、海外での実績を活かして国内での事業も展開しております。

団体名	NPO法人アクセプト・インターナショナル
設立	2017年4月（前身団体設立は2011年）
代表	永井 陽右
人数	国内48名（有給11名）+国外11名
本店住所	〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1丁目11-5日本橋吉泉ビル301
主な活動地域	ソマリア、ケニア、インドネシア、イエメン、国内
主な連携先	国連人間居住計画、国連ソマリア活動、ソマリア政府など



Paris Peace Forum 2020 日本から初選出

パリ平和フォーラムは、マクロン大統領がリードを務める国際会議です。国連PKOや赤十字国際委員会と並び、世界を変える解決策として私たちの取り組みモデルが選出されました。

現代の社会構造やwithコロナの社会で取り残されてきた保護司制度



保護司とは・・・

法務省管轄の下、罪を犯した人や非行に走った人たちの立ち直りの援助や、地域住民からの犯罪や非行の予防に関する相談に応じ、必要な助言・指導を行うなど、更生保護行政の重要な役割を担っている地域社会のボランティア

- ・ 保護司が**高齢化, 減少**
- ・ 保護司は**無給**で、若年層にはハードルが高い
- ・ 現代の都市型の生活習慣に馴染まない
- ・ COVID19の影響で面会が**減少, 停止**
- ・ 面会は**対面が基本**、オンラインでの面談の事例は少ない



本事業のイメージ図

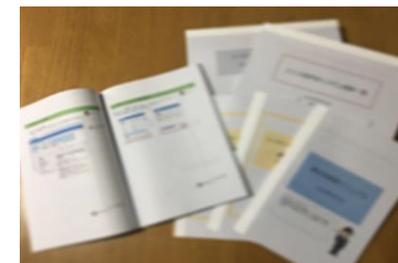
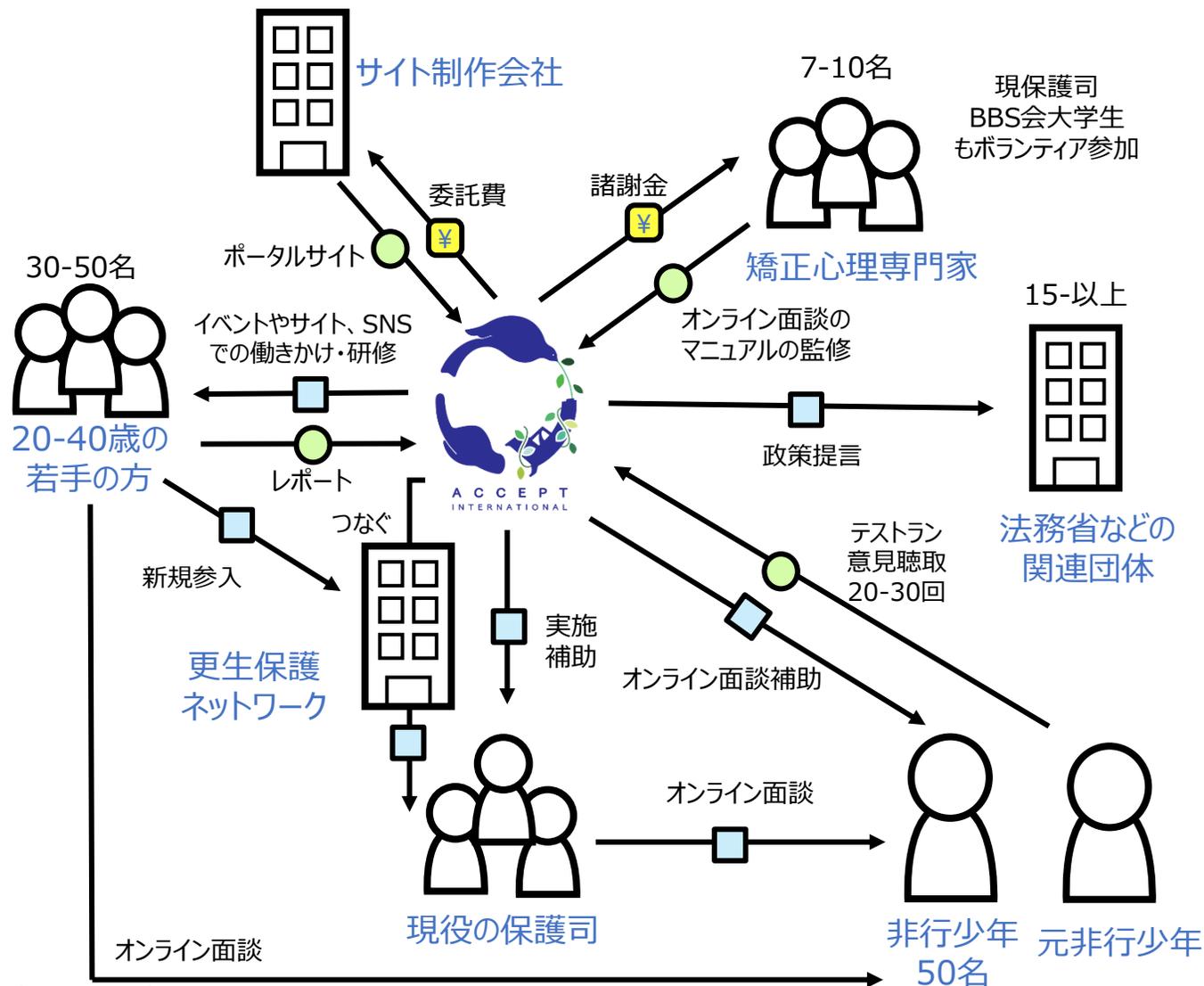
多様な関係者・有識者を巻き込みながら、①オンライン面談の実践、②マニュアルの作成など形式知化、③20-40代の活動への呼び込みを一気通貫で実施します。



オンラインの気軽さを生かして20-40代を活動へ呼び込み

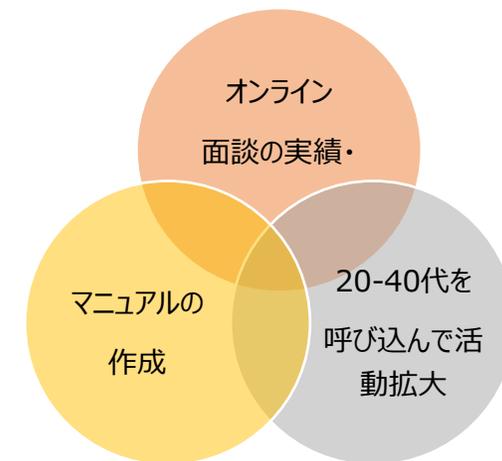


現役保護司によるオンライン面談の実施を丁寧な説明・支援で補助



経験や当事者の声を最大限に反映して経験を形式知化

3つの活動の柱



実行していく中で見えてきた障壁

法務省

非行少年との面談は罪歴や家庭状況など情報の機密性が高いため、オンライン化は試験的であっても認められない

保護司会

地域ごとのローカルルールが存在
(結婚、年齢、仕事、地域への根付きなど)

実行していく中で見えてきた障壁

法務省

非行少年との面談は罪歴や家庭状況など情報の機密性が高いため、オンライン化は試験的であっても認められない

保護司だけの問題ではなく、**地域と社会、更生保護全体**の問題である

保護司会

地域毎のローカルルールが存在

閉じた保護司コミュニティを社会に開き、
多様性を増やしていくアプローチが必要

更生保護勉強会

保護司就任
サポート

シンポジウム

活動と成果①更生保護勉強会

オンラインの更生保護勉強会を実施

11回開催, **130名**以上の方が参加

成果

現役の保護司や保護観察を受けていた当事者の方、
犯罪と関連の深い依存症支援の専門家などが参加し、
ケーススタディやディスカッションを交えた
インタラクティブな学びの場となった。



活動と成果②保護司就任サポート

現役若手保護司との相談会、江東区保護司会との座談会

勉強会で保護司になりたいと希望した**3名**が就任予定

参加者の声

保護司

保護司が高齢化・担い手不足に陥っている中で、志のある若い世代と接点を持つことがなかった為、実際に会うことが出来てとてもありがたい

志望者

先輩の保護司である方々の実際の保護司としての想いや対象者との関わり方を聞いて、より保護司就任への意欲が高まりました



活動と成果③シンポジウム

市民社会への啓発・啓蒙を目的としたシンポジウムを開催

YouTube LIVEでシンポジウムを生配信し、**160名**以上の方が参加

参加者の声

どの立場から自分が考え、発言するか。

勝手に被害者を想像して枠にはめていないか。

第三者としての立場の重要性。知らないから恐怖や拒否感を感じる。失敗を許さない社会。これらが心に残りました。

頭ごなしに「こうすべき」と言うのではなく、視聴者に問いかける、考えさせる姿勢が大変良いと思いました。

主催：NPO法人アキュプト・インターナショナル

シンポジウム：
真に誰ひとり取り残さない社会を目指して
—若者による無差別殺傷事犯を題材に—

アキュプト・インターナショナルは紛争地を中心に国内外で若者の更生に取り組んできました。本シンポジウムでは、若者による無差別殺傷事犯を切り口に、日本国内の犯罪と社会の在り方について考えていきます。

11月27日(土) | 13:00-15:00
YouTubeにてライブ配信

永井 隆右 NPO法人アキュプト・インターナショナル代表
尾瀬 健治 株式会社ラディカル株式会社コネクト代表取締役
菅原 直美 弁護士・保護司
多賀 努 東京都健康長寿医療センター研究所非常勤研究員
中瀬 虹夢 明治大学 政治経済学部3年

アクセプト・インターナショナルの目指す未来

